

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体
育)／吉本 佐雅子

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ－1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

豊かな教育実践力の養成には、授業のテクニックではなく、まず、学生自身が教科内容に関心を持ち、そのことを子どもに教えたいという意欲が基盤として必要である。そのため以下のように授業の工夫を行う。

- ①授業内容:教科内容の授業では、基礎知識をしっかり身につけることに重点を置く。教科教育の授業では体系的な授業の理論、進め方と教科内容との関連性を理解させる内容を教える。
- ②授業方法:授業は講義方式を中心に行い、そこからポイントを把握する力をつける。また、授業テーマに必要な基礎知識として、他分野との関わりなど話を広げながら多角的かつ包括的な理解が出来るようにし、単元構成力の向上および子どもへの授業を工夫する力をつける。
- ③指導案作成、模擬授業、学生同士の討論等の学生参加型授業を取り入れる。

2. 点検・評価

- ①授業内容:教科内容の授業では、基礎知識をしっかり身につけることに重点を置いた。これらに関する試験では良い成績を示し、基礎知識は得られた事が認められた。教科教育の授業では体系的な授業の理論、進め方と教科内容との関連性を理解させる内容を教え、現場での授業実践において、教える内容が保健分野においてどのような位置づけで行われているのか理解できるようにした。
- ②授業方法:授業は講義方式を中心に行い、そこからポイントを把握する力をつけるようにした。また、授業テーマに必要な基礎知識として、他分野との関わりなど話を広げながら多角的かつ包括的な理解が出来るようにし、単元構成力の向上および子どもへの授業を工夫する力をつけた。
- ③指導案作成、模擬授業、学生同士の討論等の学生参加型授業を取り入れた。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 指導学生(大学院長期履修生)に対して教員採用試験の準備を指導する。
- 健康に関する複数の授業を担当しているが、受講者の学年、選択必須にばらつきがある。これら授業に一貫性を持たせるよう、授業内容を工夫する。
- 学生が気軽に進路、悩みなどの相談に来られるよう、また、学生の様子を把握できるよう、日常的に学生とのコミュニケーションを図る。
- 博士課程学生の学位論文作成の指導を行う。

2. 点検・評価

- 指導学生(大学院長期履修生)に対して教員採用試験の準備を行わせ、兵庫県中学校体育の教員採用試験に合格させた。
- 健康に関する複数の授業を担当しているが、受講者の学年、選択必須にばらつきがある。これら授業に一貫性を持たせるよう、授業内容を工夫した。
- 学生が気軽に進路、悩みなどの相談に来られるよう、また、学生の様子を把握できるよう、日常的に学生とのコミュニケーションを図った。
- 博士課程学生の学位論文作成の指導を行った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- 従来からの研究テーマである子どもの健康状態に関する疫学的研究
- これまでに3回行った全国規模の喫煙・飲酒・薬物乱用に関する高校生調査について分析し、その成果を論文として投稿する。
- 科研(B)の高校生における喫煙・飲酒・薬物乱用に関する定点的調査を実施する。

2. 点検・評価

- 従来からの研究テーマである子どもの健康状態に関する疫学的研究を、薬物調査研究の一環として行った。
- これまでに3回行った全国規模の喫煙・飲酒・薬物乱用に関する高校生調査の分析結果を第59回学校保健学会にて発表した。
- 科研(B)「高校生における喫煙・飲酒・薬物乱用に関する定点的調査」の第1回目の調査を実施し、データベースを作成し、計画通りに進めた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- 学生支援委員会、国際交流委員会、衛生委員会、学生相談室委員会の委員として業務を遂行する。
- 第59回中国・四国地区大学教育研究会実施プロジェクト委員会、大学機関別認証評価作業部会の委員として大学運営にかかわる業務を行う。
- 大学院生確保のための広報活動を行う。

2. 点検・評価

- 学生支援委員会、衛生委員会、衛生管理者、学生相談室委員会の委員として業務を遂行した。
- 第59回中国・四国地区大学教育研究会実施プロジェクト委員会委員長として、研究会の準備、開催、報告書作成を行った。
- 学会、教師集会、他大学出張の機会に大学院生確保のための広報活動を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 附属学校との懇談会, 研究会, 実地教育指導に積極的に参加し, 附属・大学の連携体制が必要な課題を見つける。
- 性教育, 薬物乱用防止教育, 生活習慣病などに関する地域の研修会, 会議に積極的に参加する。

2. 点検・評価

- 附属小学校の研究会に参加した。
- 徳島県教育委員会主催の性に関する指導についての委員会の委員を担当した。
- 日本教育実践学会の常任編集委員会の委員を担当した。
- 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員担当(H23年12月~H24年11月)

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

中国・四国地区大学教育研究会の第59回の当番校として本学が開催した。単科大学かつ教育大学が当番校となることは初めてのことであったが, その実施プロジェクト委員会委員長として, 本研究会を滞りなく実施することができ, 本学の広報にも貢献したと考えている。